

## 「心を寄せ合う 令和時代の同窓会へ」

会長 清水 道代

平成の時代に終わりを告げ令和の時代を迎えました。同窓会員の皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

昨年4月に同窓会長を拝命し、不慣れなことばかりでしたが、無事2年目を迎えることが出来ました。これも偏に同窓会員の皆様方のお力添えの賜物と、心より御礼を申し上げます。

さて近年の研究では質の高い乳幼児教育を提供することは社会的にも経済的にも非常に有効であることが示され新たな時代に必要な保育者の資質・能力の向上が不可欠となっています。将来の日本の保育界を担う人材育成のために母校と共に歩む同窓会の果たす役割は益々重要になると考えております。

昨年度の保育研修会は初代会長松石治先生が大切にされた同窓会員による実践研究の主旨に立ち返り保育現場の若い卒業生に実践報告をいただきこれまで長きに渡り幼児教育を支えてこられた卒業生からご講演をいただきました。また在校生も特別研修として参加し世代を超えた研修会が実現致しました。午後は、ワールド・カフェ方式の研修でデザートをいただきながら語り合うことができました。少しずつ新風が吹きつつある中で昨年9月27日に三代会長前田美知子様が急逝されました。前田様は、私が申し上げるまでもなく、同窓会のあるべき姿を構築し、様々な基盤を作り上げてこられました。亡くなる1週間ほど前に久しぶりに同窓会室においでになりましたので本当に信じられない気持ちで一杯でした。新たな時代を迎える今、歴史と伝統に学びつつ、次の時代に

向けた確固たる礎を築いていかななくてはならないと意を新たにするとところでございます。

同窓会誌「ささぶね」は世代を超えた会員同士の交流の場であり、学び合い支え合う場を提供する重要な存在意義があると考えております。しかし、住所が移転し届かなかったり、開封されなかつたりする場合もあるのではないか案じております。同窓会に心を寄せてくださり維持会費を納入してくださる会員の皆様ボランティア精神で運営に携わってくださる役員の皆様のご厚意にお応えするためにも、お手にとっていただくことを切に願っています。また、会員への情報提供のもう一つのツールとしてホームページをできるだけ早期に更新し、常に新しい同窓会の活動や予定についてお知らせしていきたいと考えております。

人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ梅の花のように日本人が明日への希望を咲かせるという意味が込められた令和の時代の同窓会に、会員の皆様のなお一層のご協力と忌憚のないご意見を頂き、より良い同窓会の変革と発展を目指して参りたいと存じております。今後とも同窓会へのご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

### ・令和元年度第19回保育研修会へのお誘い

7月27日(土)に実施いたします。現場で取り組んでいる新進気鋭の方、経験豊富なベテランの方、ボランティア活動に取り組まれている方など。午後は昨年好評の「ワールド・カフェ方式」を取り入れ、多くの方にも応えることのできる研修会です。同封の(第19回保育研修会のご案内)をご覧ください。皆様お誘い合わせてご参集ください。

### ・維持会費の報告とお願い

同窓会を発展させる大きな原動力です。平成30年度は会員の温かいお心に支えられて、174名のご協力をいただきました。お陰様で「研修会」「ささぶね発行」「母校の研究発表会」への協力など事業を展開することができました。詳細につきましては同封の別紙をご覧くださいの上よろしくお願いたします。

### ・学生募集(令和2年度)への協力

母校の学生募集に協力しましょう。お知り合いに「幼稚園教諭・保育士」になりたい方はいらっしゃいませんか。詳細は、同封の別紙をご覧ください。

### ・母校研究発表会への協力

令和元年12月21日(土)22日(日)に開催予定。同窓会では校舎内に「お休み処」を設置。心地よい休憩場所を提供いたします。同窓会員の方もお立ち寄りください。

## 深謝

学校法人竹早学園

理事長 吉野 尚也



「ささぶね」の竹早創立120周年記念号によると、昭和5年に「帝都教育会附属保姆伝習所保姆科同窓会」が設立したものの翌年には休会、復活したのは8年後の昭和14年松石治初代会長によるとのことである。



それから10年後の昭和44年に「ささぶね」創刊号が発行され今号が第33号である。

創刊号の巻頭に、松石治会長は＝「ささぶね」の刊行に際して＝

と題して、…幼な児と共に小川に流した笹舟が、いつか大海に出て、ひろい世界に進出していく、希望を今日も捨てず、ひたすら保育道に精進される同窓生のために、この小冊子を作ることを思いました。名前も「ささぶね」…とあります。

その後、第二代布施マサ・第三代前田美知子・第四代下平喜代子、そして第五代清水道代会長へとバトンが渡され現在に至ります。

この間、常に『母校竹早と共に歩む同窓会』として同窓の絆を深め、母校に対し筆舌に尽くせぬ程の支援・援助をしていただき深謝するばかりです。

## ～竹早の教務室から～

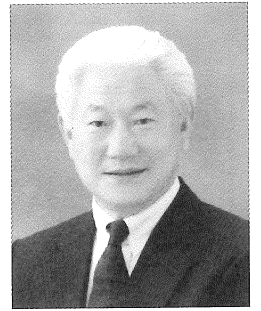
養成所教員 中村 香津美 (S55卒)

今年は最後という言葉がよく使われていますが、竹早教員保育士養成所でも平成最後の卒業生118名が夢の実現に向けて巣立っていきました。同窓生の総数は、15,349人となりました。保育者になりたいと将来の夢を描き、2年間で卒業式を迎えることは大変なことです。入学してきた学生全員が卒業できるわけではありません。子供が好き、可愛いだけではできない仕事です。子供たちの大切な命を預かる仕事、そして何よりもこれから先の人生をより良く過ごすために必要な基礎となる様々なことを、遊びの中から学び、身に付ける職業であることを日々の授業や実習から学びとり、責任の重さを十分に感じたことと思います。4月から新しい職場でそれぞれ活躍することを願っています。

養成校でも質の高い保育者の育成が強く求められるようになりました。来年度から、教科名や授業内容が変わるなど、養成校も大きく変わろうとしています。巣立っていった卒業生がそれぞれの場で輝けるように、同窓生の皆様、優しく、時には厳しくご指導をお願い致します。

## ともに良き保育者を 育てよう

所長 齊藤 光一



この3月には118名の卒業生を送りだしました。これらの卒業生たちは、同窓会員として新たな出発の時を迎えました。先輩の同窓生の皆様、新同窓会員へのご支援をよろしく願いたします。

私は、卒業式の際に「子どもの気持ちをしっかりと受けとめ、受けとめた気持ちを言葉で返してあげることのできる保育者になってほしい」と、卒業生の皆さんに伝えました。これは「共感的理解」ということを、言葉で分かっているだけでなく、実践で表現できる保育者になってほしいと願っていることです。

また、4月の入学式の際には、新入生の皆さんに「時間を守り、身の回りの整え、挨拶をするという社会生活の基本を、学校生活の中でしっかりと実践するという良き校風を、先輩から引き継いでほしい」と、伝えるつもりです。これは新入生に同窓意識を芽生えさせ、同窓の環をさらに広げていきたいと願っていることです。

日常の教育活動をきめ細かく進め、学生の意欲を引き出し、学生一人ひとりを良き保育者に育てていきたい、と考えています。今後とも、同窓会の皆様の温かいご支援、ご協力をよろしく願いたします。

## —— 平成30年度のあゆみ ——

4. 3	新入学生に同窓会紹介・お祝いエプロン贈呈
4	平成30年度入学式 清水会長あいさつ
5. 9	第1回正副会長会
6. 4	会報 第32号「ささぶね」等発送作業
～5	会報「ささぶね32号」4900部発送 ・封筒住所シール貼(5月)
	ボランティア延21名協力、完了
7. 7	創立80周年実行委員会解散会
11	第18回「保育研修会」開催のための第2回理事会開催
8. 5	第18回「保育研修会」開催
11. 7	第2回正副会長会
12. 5	研究発表会協力のための第3回理事会開催
12.21	保育研究発表会協力参加(第1日目)
22	保育研究発表会協力参加(第2日目)
平成31年	
2. 2	第3回正副会長会
3.14	卒業生入会説明会・「ささぶね32号」贈呈 新幹事歓迎会各組2名・理事6名選出
18	平成30年度卒業式 会長代理・鳩山副会長参列
20	平成30年度理事総会

# 30年度活動報告

## 第18回 保育研修会

☆日 時：平成30年8月5日(日) 10:00～15:00  
 ☆参加人数：150名(本学学生1年111名) 会員39名

☆会 場：竹早教員保育士養成所 第1校舎  
 ☆テーマ：育てよう子どもたちの未来

### <午前部>

テーマ：保育の世界を楽しもう

講師：赤坂榮先生(東京未来大学非常勤講師)

事例提案：白石賢一保育教諭・古澤幹寛保育教諭

(特定非営利活動法人 子育て台東台東区認定こども園ことぶきこども園)

本学卒業生の手遊びで始まり、和らいだ雰囲気の中でスタートしました。その後、卒業生のことぶきこども園に勤務する2人から、具体的な保育の映像をもとに事例提案が行われました。各自が映像を見ての感想を付箋に書く、グループで話し合う等、全体での発表の流れで行われました。まとめとして赤坂先生から「幼児教育の充実のための基本視点、子どもが育つということ」などについて講話が行われました。

会員からは「保育現場での悩みや喜びなど様々な話が聞けて素晴らしい研修会だった。」同窓生である2人の男性保育教諭の提案は「とても頼もしく感じた。」

1年生からは「分かりやすい説明なのでよく分かった。実際に子どもが何を考えて遊んでいるのか少し理解できた」などの感想がありました。来年の研修会に期待する声が聞かれた研修会でした。



講師・講話



グループ討義

### <午後部>

テーマ：ワールドカフェ——現在、未来を語り合う——

素敵なネーミングに「ワクワク気分」で会員の皆様が参加されました。清水会長より「ワールド・カフェ」の意図や方法について説明を聞いた後、飲み放題のジュースやお茶、解説付きの「名家、名門」のお菓子の選択から始まりました。テーマに添い「しばられない、とらわれない、結論を求めない」の自分の気持ちを伝えながら、机上の用紙に自由にメモを書き、時間が来ると次のテーブルに移動し、また違うメンバーと行い心が広がります。最後は他のグループの用紙を貼り考えや思いをシェアしました。保育や子どもを語る想いは共通で、大先輩、中堅保育者、新任教諭とも世代を超えた仲間のつながりで竹早のカラーと精神が語り継がれていました。もっと話したいという思いで閉会しました。



本学学生の参加 楽しい手あそび

## 研究発表会への協力“お休み処”

～おもてなしと交流のこころをこめて～

母校の保育研究発表会が平成30年12月22、23日に行われました。同窓会と後援会が協力して本年度も発表会に訪れる方々のくつろぎや語らいの場として“お休み処”を設定しました。同窓会の活動や歴史を年表として展示しました。懐かしむ方、竹早を知りたい方が熱心に資料を見ていました。

～メッセージカードで訪れた方々との交流～

今年はリンゴの木をラシャ紙で作成・設定して、自由に感想や学生への励ましのことば等を書いて貼付していただき、多くの方の楽しいメッセージが寄せられました。

～“お休み処”の喫茶室はバイキング方式～

見学者、保護者の方など、おいしいお菓子と飲み物を楽しんで笑顔がいっぱい！世代交流の場となりました。様々な世代の方・お子さま連れのお客様に大好評でした。この場は訪れた方や会員同士の絆の場となり和やかで笑いの絶えない場となりました。



【平成31年度（令和元年度）竹早教員保育士養成所同窓会理事会組織】

役職	氏名	卒業年	役職	氏名	卒業年	役職	氏名	卒業年
会長	清水道代	S.57	理事	大野千恵子	S.43	理事	伊礼あきら	H.29
副会長	福田多喜子	S.44	理事	橋本明美	S.55	理事	橋本小春	H.29
養成所教員副会長	中村香津美	S.55	理事	清水百合香	S.55	理事	安田萌衣	H.29
副会長	今野君江	S.35	理事	田中通子	H.8	理事	大河原美和	H.30
副会長	鳩山多加子	S.46	理事	井上澄恵	H.16	理事	永野芙悠	H.30
会計	岡川洋子	S.36	理事	森華代	H.15	理事	横堀葵	H.30
職員計	山口直美	S.55	理事	藤井大輔	H.24	理事	根元琴乃	H.30
会計監査	小野寺萬亀子	S.38	理事	岡本瑛	H.25	理事	武井愛香	H.30
監査	高原泰子	S.46	理事	梁本友華	H.25	理事	塩崎千紘	H.30
養成所教員理事	小川貴代子	H.8	理事	渡邊郁美	H.25			
理事	糸幸子	S.29	理事	大廣千秋	H.26	事務局員	今野君江	
理事	田中靖子	S.33	理事	武井彩香	H.27	事務局員	湯澤都与子	
理事	釜井孝	S.39	理事	宮川来夢	H.29	事務局員	岡川洋子	
理事	塚越アサ子	S.40	理事	渡邊綾乃	H.29			
理事	湯澤都与子	S.41	理事	酒井喜信	H.29			

事務局だより

5月から始まった元号令和ですが、同窓会組織は平成31年3月25日に総会がありました。したがって事務局では今年度は、組織名称を平成31年度と令和元年度を併記した形で作成しました。

事務局では今年度も絆を深めながら、母校と共に歩む同窓会として、事業を進めていきたいと考えておりワイワイガヤガヤ賑やかに事業を進めております。お近くにおいでの際は折にはお立ち寄りください。(水曜日開局)

事務局の仕事

- ①会報「ささぶね」編集発行 ②保育研修会計画実施
- ③会員名簿：管理、整理
- ④学校関連事業（同窓会紹介、新入生祝エプロン贈呈 保育研究発表会への協力）など多岐にわたります。

会員皆様へのお願い

- 住所・氏名その他変更事項がありましたら事務局迄お知らせください。
- 維持会費振込用紙に卒業年度をご記入ください。



編集後記

82周年を歩み始めた同窓会の会報「ささぶね33号」も皆様にお届けする運びとなりました。玉稿を吉野理事長様・齊藤所長様はじめ会員の多くの方々を掲載できました。お忙しい中ありがとうございました。

元号が令和に改まると時を同じくして「ささぶね」の封筒を明るく希望に満ちた年でありたいと願い一新しました。歴史と伝統ある母校の様子・同窓生の声・同窓会の活動や事業へのかかわりなどできるだけお知らせしたいと事務局では思っています。

折に触れて声をお聞かせいただければ幸いです。お待ちしております。



同窓会事務局

《開局日 毎週水曜日 10:00～15:00》

〒112-0002 文京区小石川4-1-16  
TEL/FAX 03-3813-7188

■メールアドレスは次のようになりました。  
dousoukai@takehaya.ac.jp

ささぶね 第33号

発行日 令和元年6月1日  
発行 竹早教員保育士養成所同窓会  
代表者 同窓会長 清水道代  
印刷 株式会社マチダ印刷

## 追悼

平成30年9月27日同窓会第三代会長前田美知子様に於かれましては、ご逝去されました。

ここに謹んでご功績を偲び追悼の意を表します。

### 同窓会でのあゆみ

平成14年第三代会長前田美知子就任（昭和27年卒）。歴代会長の輝かしい歩みに併せて、実績を重ねました。

平成16年に隔年発行の会報「ささぶね」を、18号から同窓生の絆を一層深めるため、毎年発行と定め今日も受け継がれています。

同時にグループ研究「母校と同窓会の歴史」を発足させました。この研究は平成29年の母校創立130周年・同窓会80周年記念事業として発行された記念誌に年表として掲載されました。

平成18年財政再建のため維持会費設定、任意募集としました。このことは、平成29年10月1日母校130周年併せて同窓会80周年記念事業遂行の基となりました。これは同窓生の皆様のご支援の賜物でもあります。

平成19年・同窓会事務局の部屋を第2校舎内に借り受けました。より一層同窓会の充実を図ることができています。

平成20年には母校創立120周年記念特集号として「ささぶね」を発行、併せて120周年懇親会を開催し、母校と共に歩む同窓会を体現されました。

平成29年の母校130周年・同窓会80周年記念事業には同窓会実行委員会の相談役として、記念事業の記念誌編集等貴重なアドバイスをいただきました。

10年に渉る会長職、その後は顧問として、同窓会を支えてくださいました。多くの実績を残し逝去されたことは、誠に残念でなりません。

ここに謹んで平成29年母校130周年・同窓会80周年事業記念誌に寄せられた祝辞（抜粋）を掲載し追悼の意を表します。

### ～母校と同窓会の絆について思う～

本年母校創立130周年・同窓会設立80周年を共にお祝いすることになりました。心から母校に感謝申し上げると共に、今日までの母校と同窓会の長く強い絆を深くいたしております。歴史を辿れば昭和14年、全国在住の同窓会員に呼びかけ母校の後援・相互向上親睦を図ることを目指した「夏季研修会」を開催、伝習所創立以来の開催に全国から参加。大盛会成为り母校と卒業生の絆が結ばれるきっかけとなりました。今後同窓生相互が絆を深める場とし、歴史と伝統ある同窓会の発展を祈念しております。

## 惜別

### 「人生の羅針盤」

清水 道代 S57年3月

前田元会長とは、保育学会での発表を契機に母校の歴史研究をご一緒させて頂き、文献調査や卒業生へのインタビューなど貴重な発見を共有し、示唆を頂いて参りました。何より、前田元会長の歩まれた道を折に触れ伺うことができたことは、私の人生にとって掛け替えのない学びの時間でした。小柄で華奢な前田元会長の生き方は、力強く、潔く、温かく、美しく、私の人生の羅針盤となりました。戦後、日本の幼児教育の充実、発展に留まらず途上国の保育へも目を向けられ尽力された足跡、母校、同窓会に対する熱い思いを改めて思い起こしています。

### ありがとう前田美知子元会長

下平 喜代子 S27年3月

私は前田元会長とは、竹早の入学以来幼稚園関係の勤務、そして最後に同窓会の仕事もご一緒させていただき、長いことご縁がありました。前田元会長から自分の後を引き継いでほしいとの電話があり、大変驚きすぐお断りしました。とても前田先生のようにはできないと思ったからです。しかし何度かの依頼で、前田先生の協力を借りながらということで、承諾いたしました。先生は在任中機関紙「ささぶね」を通して、会員の絆を深める努力をして下さいました。まだまだ同窓会の今後にお力をいただけたらと思っておりましたが、とても残念です。

### 凜として美しい前田美知子先生

塚越 アサ子 S39年3月

約半世紀前、前田先生が東京都の指導主事でいらした頃、研究保育でご指導頂いたのが出会いの始まりです。

多くの要職に在った矢先ですが、特に全国組織の研究団体の事務局長として、長年に渡り会を支え隆盛に導いたご努力と緻密な計画や行動力等忘れがたい思い出です。

更に同窓会会長となられてからは、学園の為に何をなすべきか後輩の育成に情熱を捧げ、今日の同窓会の礎を築かれました。その集大成となった周年行事への取り組みは寝食を忘れる程でした。常に凛としてお洒落で美しい前田美知子先生、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

### メモ帳の思い出

湯澤 都与子 S41年3月

前田元会長とは、私が保育助手で勤務した幼稚園が出会いでした。事務局室が出来た時に「手伝って欲しい。」と言われて今に至ります。

いつも同窓会の将来に向けて、会員の絆を強め、養成所との連携を大切にと考えていました。鞆の中には鉛筆とメモ用紙が入っていて、閃いたことをすぐ書き止め、書かれた文字の中から熱い思いが伝わってきました。研修会の企画でも、研修内容についての助言は大変勉強になりました。厳しい中に笑顔と優しさがいつも光っていました。



# ささぶねひろば

友達・先生・学校生活の思い出  
近況報告・同期会報告・いろいろ

## 実習生を受け入れてどのように感じるか

古澤 幹寛 H26. 3卒

実習生を受け入れる際、一番感じることは人としてのマナーの大切さです。

男性としては特に、人間関係を円滑に進めることが、職場内をよくしていくと感じています。例えば挨拶は、大人がしっかりすることで子供の身に付いていきます。大人の気持ちを子供は敏感に感じるのです、緊張せず楽しむ気持ちで実習にきてほしいと思います。いろいろな環境があり、様々な理念があり、個性があるからこそ保育の現場はおもしろいと思います。人が人らしく、大人と子供の関係だけでなく、一人の人間として実習期間を楽しく過ごしてください。実習生の受け入れをすることで、私も成長できています。実習生の子供に対する接し方や判断を見てうらやましく感じることもあり、また楽しみにしている面もあります。

## 初めて担任になって

杉田 彩子 H30. 3卒

街道に咲き誇る桜を見て、竹早を卒業してから1年が経ったことに気がつきました。月日の流れの早さを実感するとともに、初めての担任を経験したこの1年が、それほど充実した日々であったのだと感慨深く思います。

幼稚園教諭として勤めることも担任になることも、何もかも初めてだったこの1年は、先輩の先生方についていくのに必死で、壁にぶつかることも反省することも多くありました。その度に壁を乗り越えよう、もっとより良くしていきたい、と前向きに思えたのは、「日々成長していく子どもたちの姿を傍らで見届けられる喜び」が原動力になったように感じています。担任として子どもたちとかかわり過ごしたこの1年は、今後の人生においても自分の支えになる必要不可欠なものになるだろうと思っています。

## 先輩の皆様ありがとうございます

田中 靖子 S33. 3卒

母校、竹早教員養成所に入学した時は、学芸大学の一部を借用したところが教室で、夕方からの始業でした。その後になって第一校舎が新築されて2年制となり、私はその初めての卒業生となりました。

その頃には保育実習もあり、松石治先生が園長先生でおられた清島幼稚園で実習をさせていただきました。この70年程前の第一歩が基となり、現在も幼稚園で園児たちと過ごしています。

竹早同窓会は、松石治先生、前田美知子先生、滝口先生、下平先生等の先輩方が築いてくださいました。この確かな歩みをさらに今、清水道代会長が進めてくださっています。先輩の皆様には感謝申し上げます。有難うございました。

## 園児達への追想

鍋谷 三貴子 (伊藤) S41. 3卒

故郷の幼稚園で教員として携わったのは僅か三年。年少から年長へと同じ子供達を担当出来たことでそれぞれの成長過程をつぶさに見てとれた貴重な三年間だった。保育のひとつの目標としたのは他者への思いやり。子供は、時として弱いものに対して残酷な一面を見せるものだ。年長になった頃、毎日ウンチのおもらしをM君はするようになった。周りの子供達は鼻をつまみ騒ぎ出す。私が静かにM君を連れ汚れものの始末をして何事もなかったように二人で教室に戻る数日間の後、皆の様子に変化が訪れた。鼻をつまむ行動が消え、M君のおもらしを知らせに来てくれたのだ。私は嬉しかった。「誰だって失敗はあるのよ」と、その時私は皆に話した。それから何日後、M君はおもらしから卒業したのである。

## 竹早の学生でいたころ

加澤 妙子(湯澤) S45. 3卒

竹早に入学した頃は、午前・午後・夜間の3部制でした。私は午後部で午前中は私立幼稚園で助手として働き担任の先生の手伝いや雑用をしていました。仕事を終えると授業に間に合うようにいつもかけ足で移動していた思いがあります。授業では狭い校舎での根本先生のリズムの時間が印象に残っています。身体を使って表現する事が新鮮で、仲間と曲に合わせて振り付けを考える機会もあり楽しい経験でした。また、大変だったのはピアノの授業で個人レッスンなので予習復習していないと先生の前で赤面です。そこで、授業の前後にピアノの練習室を確保するのに皆必死で、空いている時間を見つけては一生懸命練習したものでした。あの頃は仲間の皆が何事にも貪欲に挑戦していて、お互いに足りないものを補い合い活気にみちていました。

## 「早乙女会」は今も

風間 美絵子(齋藤) S46. 3卒

毎年5月、竹早の元「乙女」たちが、笑顔と元気をお土産に集うこと20余年。竹早時代、心通わせ共に支え合ったメンバーは、卒業後も親交を温め年に一度の「早乙女会」を定例にしました。この会の発起人兼幹事は小牧さん。ランチやお楽しみプランを準備してくださいませ。

振り返れば、竹早で席を並べた友は公私立幼稚園の教員になり、時には教材研究や情報交換等互いに切磋琢磨し、熱意溢れる「先生」でした。各々が抱えている問題に、互いが寄り添い泣き笑った時間が懐かしく思い出されます。

古希を前にしたメンバーは、竹早時代と変わらない豊かな感性と温かい人間性をもち寄って、今年も5月11日、新宿に集います。互いのパワーを交換しポジティブに生きていくことを確かめ合うために。

## 出合いに感謝して

矢部 美和子(皆川) S49. 3卒

この3月、再任用期間5年を含め45年の教員生活を終えます。文京区、豊島区、荒川区の3区、8園で出会った子どもたちや保護者の方々、先生方から多くのことを学びました。初めて着任した園は竹早出身の先輩方や同期、後輩、200人近くの子どものたちと活気溢れる毎日でした。互いの保育を開き合うことの大切さを学んだ5年間は、自身の保育観の基盤となっていたように思います。豊島区は当時1年保育でした。入園から修了まで1年間の教育活動は難しくも子どもたちの吸収力に驚かさ

れました。荒川区では、初めての3歳児保育、担任から主任・副園長・園長としてそれぞれの立場で子どもたちと向き合ってきました。竹早時代に松石先生からお教えいただいた「笑顔で謙虚に、を常に心がけながら歩むことができたのではないかと振り返っています。

## 私の宝物

伊藤 智子(井上) S50. 3卒

卒業してから44年がたちます。自分の中ではすぐにあの頃にもどれます。見た目も年も44年がたっているというののです。それは今でもあの頃の方々とお付き合いが続いているからです。(勤務は6年)

毎年3月には当時の園長先生から一番年下の私まで顔をあわせ続けています。思い出話も、今の子ども達のおかれている状況も、教育現場の変化等々でも、毎回話が盛りあがるのです。

数年に一度は今だに竹早時代の友人達とおしゃべり食事会も続いています。

年賀状を送り続けてくれる教え子もいます。これら全て私の幸せの原点は竹早にあります。

私の宝物、それは宝石?でもお金?でもなくこの私のまわりにいらっしゃる人々なのです。

わが母校の発展を心よりお祈り申し上げます。

## 幸せな人生

井上 由利子(遠藤) S50. 3卒

停年退職して5年目に入りました。担任時代は北区公立幼稚園5園、管理職で千代田区3園。今振り返ると元気で教員生活を全うできたことは、職員に恵まれ地域に支えられたと感謝の思いが溢れます。

竹早卒業当時は、様々な研究会で多くの仲間と出合い同窓会のようなものでした。また多くの先輩方が様々な会に名を連ね要職について活躍されるお姿を拝見する度に、竹早の存在の大きさを実感し卒業生であることの誇りを新たにしていました。この同窓会もそのような先輩方が運営してくださり感謝です。

私は現在、保育者を目指す学生の授業に関わり、これまでの経験が少しでも活かせればと奮気しています。

3法令改定によりまだまだ勉強せねばなりません、一人一人の子どもがもっている育つ力を引き出し支える保育者を現場に送り出していきます。

## 幼稚園を退職してその後の思い

根岸 裕子(黒川) S52. 3卒

私が本養成所を卒業して40年も経ってしまいました。在学中は、幼児教育の勉強にリズム体操そしてピアノの

レッスンに励みました。レクリエーションでは、先輩からの手遊びや実習での経験談などに耳を傾け、『早く担任になりたい』と日々幼稚園教諭を夢見ていました。その後30年余り幼稚園に勤務いたしました。5年前に現役を退職し、その後は義父の介護と孫の世話をしています。しかし、子ども達の声や幼稚園のなんとも言えないあの匂いが懐かしく、月に2、3度ボランティアとして『絵本の読み聞かせや体操』を行うために、幼稚園に行っています。子ども達の素直な笑顔と可愛い声が、私の心の栄養となっています。

体力が続く限り幼稚園のこの活動を行っていただければ良いと思っています。

## 退職して思うこと～これからの皆さんへ～

高圓 元美(秋山) S53. 3卒

近くに勤務しながらすっかり御無沙汰してしまい昨年、40年の教員生活を無事終えました。

午前中は区立幼稚園でお手伝いさせていただき、午後は学校へ。そんな毎日がとても懐かしいです。在学中は大変さもありましたが、子供と接した保育現場での毎日はその後、教員としてスタートする自分にとって貴重な経験になったと思います。

園長として退職する年、貴校の保育補助の学生を受け入れました。そこで「先生、私のこと覚えてますか。」と声をかけられました。その学生は担任時代の教え子だったのです。立派に成長し、保育者を目指し勉強していることを大変うれしく思いました。幼児教育界は年々新たな課題が出てきます。退職まで勉強は続きますが、皆さんとの出会いを待っている子供達のために素敵な先生になってください。

## 感謝

阿内 三智子(貝塚) S54. 3卒

今年は私にとって最後の修了式でした。子どもたちはその子らしくいい顔をしていて、一人一人の成長を実感しながら修了証書を渡すことができ、何より充実感があり、この上ない幸せを感じました。

これまでたくさんの個性あふれる子どもたちと出会い、その無邪気な笑顔に癒され、きらめく感性に心打たれ、ひた向きの姿に励まされ、たくさんのことを学ばせてもらいました。最後まで務められたのは、子どもたちはもちろんのこと、支えてくださった先輩や仲間、保護者、これまで出会ったすべての方のおかげと感謝の気持ちでいっぱいです。

これまで振り返る余裕なく、夢中で過ごしてきましたが、改めてこの仕事が大好きだったと思いました。これからは子どもたちと共に過ごした日々を思い出しながら、ゆっくり生活してみたいと思います。

## トピックス

### 「なんと！新鮮な 野菜販売コーナーが」



昨年度は、小野寺会員(S.38卒)がお休み処「ささぶね」に野菜の販売コーナーを計画してくれました。丹精込めて育てた野菜は、母校で培った保育の心「お客様に喜んでいただきたい」というご厚意からご主人も協力して下さり実現しました。

その気持ちに、福田会員(S.44卒)が子どもの言葉を添えた可愛いシールを付けました。

新鮮なほうれん草、人参、里芋、等あつという間に完売しました。

同窓会の皆様も令和元年12月21、22日に行われる養成所の保育研究発表会に是非お出かけください。

「お休み処 ささぶね」でお待ちしています。

## 令和元年同窓会新理事の紹介

今年も3月に新幹事との顔合わせ会を行いました。卒業間近い大変忙しい時でしたが、初々しい笑顔で参加してくれました。

事務局からは会長、副会長、事務局員の7名と新幹事の方6名で一緒に食事をしました。

ご紹介します。

A組 大河原 美和さん 永野 芙悠さん

B組 横堀 葵さん 根元 琴乃さん

C組 武井 愛香さん 塩崎 千紘さん

「では、この中から3名理事を決めてください」と声を掛けると「全員理事になります！」と心強い声が返ってきました。ということで今年度は新理事6名をお迎えしました。どうぞ一緒に楽しく同窓会を進めていきましょう。頑張ってください。

## 「ささぶねひろば」の担当から

「ひろばのコーナー」を今年も皆様のご協力でまとめることができ、感謝です。

原稿依頼のためにご連絡すると、まず「えーだめよー、この頃文章書いてないから！」と断られますが、主旨を話すと、必ず「では書いてみまーす。」と受けてくださり、素敵な原稿が手元に届きました。とても嬉しいです。

### 【お願い】

- ・同期会の様子 ・あの頃の友達は何？
- ・お世話になった先生 ・偶然出会った先輩後輩
- ・現在の状況 ・現職の悩みや相談
- ・元気に働いている今 等々

書いていただける方は事務局までご連絡ください。また、執筆依頼がありましたら、是非ご協力をお願いいたします。